

33. Dダイマー検査の迅速報告への取り組み（コスト管理も含めて）

千葉県救急医療センター 検査部検査科 佐藤正
— 山本雅彦

【目的】当センターは、循環器科や脳外科、神経外科などの患者が多いことから、患者の凝固線溶系は高度の線溶活性状態となっている場合が多く、測定レンジをはるかに超える場合も少なくない。迅速な報告が要求される線溶活性に対して、機器の特徴により長時間の測定を要するため、コストを含めた対策を行ったので報告する。

【方法および対象】使用機器：全自動血液凝固線溶測定装置 STA-R Evolution（ロシュ・イナステック社）、7180 形日立自動分析装置（日立ハイテクノロジーズ）、使用試薬：ライアテスト Dダイマー、コアグソル FDP（ロシュ・イナステック社）、ナルリア Dダイマー、（積水メディカル）、対象：当院入院および外来患者の 3.2%ケイ酸 Na 加血漿。

【結果および考察】受付から検査報告までの時間は、STA-R による Dダイマー 40 μg/mL を超える高濃度検体では、約 66 分であったが、7180 で測定することで約 37 分に短縮した。これは、開発目的が肺血栓塞栓症の診断にある STA-R による Dダイマー測定は、低濃度検体を正確に測定することに主眼を置いているため、4 μg/mL 以上の高値検体に対して希釈測定を繰り返す機構となっているためである。したがって、STA-R では、繰り返し測定のために長時間を要していた。一方、DIC 診断を目的とするナルリアと 7180 の組み合わせでは、低濃度域から 60 μg/mL までの高濃度域までカバーすることと、60 μg/mL 超える検体であっても 1 回の希釈測定で結果が得られることから、短時間で測定を終了することが可能であった。

【結論】今回、測定機器を変更することにより線溶検査結果を迅速に報告することが可能となった。また、繰り返し測定を減少させることで、コスト面でも有効であった。

043-279-2211

34. ACL TOP500を用いたヒモスアイエルリコンビラスチン試薬の基礎的検討

高柳寿美子 下条小百合 堀田富康 吉田隆
養口史之（株式会社サンリツ）

【目的】プロトロンビン時間（PT）の INR 報告において、感度の高い試薬ほど ISI は 1.00 に近く、試薬間での互換性が良いとされている。今回、我々は ACL TOP500 を用い、遺伝子組み換え型ヒト組織因子にリン脂質を再構成したヒモスアイエルリコンビラスチン試薬を検討する機会を得たので報告する。

【検討機器 / 試薬】ACL TOP500 / ヒモスアイエルリコンビラスチン（以下 RPT 試薬）（三菱化学メディエンス）

【対照機器 / 試薬】CA6000 / トロンボレル S（Sysmex）

【検討内容】同時再現性(N=10)、試薬添付 ISI の検証と正常秒数の確認、対照法との相関(N=294)

【結果】同時再現性；2種類の管理物質を測定したところ、PT(INR)は CV=1.30%以下と良好であった。試薬添付 ISI の検証；AKキャリブ rant（Sysmex）を用いて、RPT 試薬の Local SI（LSI）を求めたところ、試薬添付の ISI=0.99 に対し、LSI は 1.01 と極めて近似した値をしめした。また、正常秒数は、専用キャリブプレート（ヒモスアイエルキャリブレーション血漿）の 100%が 11.56 秒をしめし、AKキャリブ rant から求まる正常秒数は 11.17 秒であった。対照法との相関；PT(INR)で $y=0.930X+0.070$ $r=0.991$ と良好であった。

【考察】RPT 試薬は専用機器の使用により、表記されている ISI を使用した INR の報告が可能と考えられた。また、正常秒数の設定に専用キャリブプレートの 100%値を用いた場合、INR が 5.0 をしめす延長域のレベルでも LSI から求まる INR との差は 0.1 未満と小さく、専用キャリブプレートを正常秒数として用いた INR 報告が可能と考えられた。

047-487-2631

043-264-5431(内線 3733)